

福マネット

<発行日>
平成29年5月1日

第14号

「福マネット」とは「福島のカマナジャーのネットワークを深めていこう!」という思いが込められています。

巻頭言



一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 副会長

吉田光子

新年度を迎え、会員の皆さまにおかれましては、毎日お忙しい中頑張っていることと思います。一般社団法人福島県介護支援専門員協会も、体制を入れ替え、新しいスタートを切ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて皆さまもすでにご存じのとおり、介護保険をめぐる様々なことが変わろうとしています。それぞれの住み慣れた地域で、できる限り暮らしていくために、地域包括ケアが叫ばれ、介護支援専門員が要となることを求められています。しかし、具体的にどう動けばいいのか、どんな連携が利用者を支えていくことにつながるのか、また自分が今所属している機関としてどのような貢献ができるのか。悩みも尽きないのが現状ではないでしょうか。

また、医療との連携もますます進めるべく、退院前からの関与や入院時の情報提供など、さらに業務は増え、またこうしたことに苦手意識があり辛いお気持ちの会員さまもいらっしゃる

のではないかと考えています。さらには高齢者分野と、子どもや障がい者支援の方々との協働の場が広がっています。同一敷地で複数サービスを提供する取り組みや、同一事業所において障がい者のサービス提供もできるようにしていくなどという国の方針も示されています。

会員の皆さま、ただ目の前の仕事を懸命に果たすだけではなく、少し視野を広げて周りを見渡してみませんか。悩みや不安を仲間と共有しませんか。よりよいやり方やできていることを見つけて、元気の素を補充しませんか。福島県介護支援専門員協会では、そんな機会を見つけていただくお手伝いをしたいと考えております。

皆さまの要望に応える研修を企画したり、協会というつながりを使って各地域の実践を互いに伝える場を作ったり、あるいは知恵を交換する場を持ったり、これからも会員の皆さまを応援していきたいと考えています。

どうぞ、近くの理事や事務所へ、ご希望ご意見をお寄せください。一緒に、会員のための活動を目指していこうではありませんか。



目次

- 巻頭言..... 1
- 福マネットリレー“結”..... 2
- 認知症施策関連ニュース..... 2～3
- 会員研修の報告..... 4
- 第19回介護支援専門員実務研修受講試験... 4

ハイライト

- ◆吉田副会長からのメッセージ
- ◆福マネットリレー“結”
(すかがわ介護支援専門員協議会)
- ◆福島市といわき市の取り組みを報告
- ◆盛況だった鯨岡先生のコーチング研修
- ◆更に合格率が低下、困難さが増す
ケアマネ試験

福マネット リレー



すかがわ介護支援専門員協議会
会長 野崎 直子

すかがわ介護支援専門員協議会は、介護保険がスタートした翌年4月に設立しました。先輩方のバトンを引き継いで16年目を迎えます。私達の会の特徴は、会員の構成が介護支援専門員に限らず会の活動に賛同していただける方（賛助会員）も入会できる点です。現在の会員は108名（介護支援専門員91名、賛助会員17名）の登録があります。賛助会員の方には、医師、歯科医師、市福祉課職員、地域包括支援センター職員、福祉用具相談員等が入会されています。

須賀川市においても地域包括ケアシステムづくりが着々と進められ、私達、介護支援専門員の専門性や役割が求められているところです。本会では、会員向けの研修を年6回開催しています。平成28年度は「利用者、家族とどう向き合うのか」を視点とし虐待や権利擁護の研修、外部講師を招いた野中事例検討会を行いました。事例検討会ではひとつの事例を参加者皆でいろいろな角度から考えアイデアが出されました。これからの地域ケア会議等に活かしていければと考えています。また、地元医師との連携

を図るため「在宅における医療と介護の連携」について在宅医から講義をいただき連携における考え方や配慮すべきことなど知ることができました。地元医師会からは顔の見える関係を築いていきたいと思います。訪問看護事業所も含めた医療職との連携が上手く図れるよう相互の交流や学びの機会を継続して行っていききたいと思います。

住み慣れた家、地域で望む暮らしの継続、安心して暮らせる社会づくりに貢献できるよう、お互いに切磋琢磨し、地域の各協議団体との連携を図っていききたいと思います。

今後の運営において研修開催や各団体との連携において上手くいっていることなどの情報やアドバイスがあると助かります。今後ともすかがわ協議会をよろしくお願い致します。



各市の認知症に対する取り組み 認知症施策をお伝えします

福島市の取り組み ～認知症初期集中支援チームの活動～

あずま通りクリニック 伊藤 麻樹子

福島市では、平成25年度より認知症初期集中支援チーム（以下「チーム」と呼ぶ）モデル事業に取り組み、制度化前の26年度より活動を継続しています。チームは、あずま通りクリニックに一括委託をしており、認知症専門医、保健師、看護師、作業療法士、介護福祉士等の専門職で構成されます。開始から28年3月末までの訪問人数は173人で、紹介経路としては地域包括支援センター（以下「地域包括」と呼ぶ）から85人と半数を占め、次いでケアマネジャーから41人（24%）、家族より30人（17%）となっています。ケアマネジャーからの紹介は、かかりつけ医との連携に課題がある、BPSDの対応に



苦慮している、家族調整が困難である、地域トラブルがある等の困難ケースが多くなっています。

専門医受診につながった事例は約8割

に上り、認知症の段階としては、早期ではなく中等症以上の方が多くなっています。チームの啓発を目的に、地域包括やケアマネジャーを対象に、専門医による講演会を毎年開催してきましたが、どのようなケースを、どのタイミングでチームに相談したら良いのかわからないといった、周知不足や連携不足といった課題があり、今年度は事例によるグループワークを交え研修会を行いました。

毎月の定例チーム員会議には、チーム員だけでなく行政や地域包括、ケアマネジャーに参加してもらい、アセスメントや支援方針を検討しています。今年度、市内19地域包括中6ヶ所に認知症地域支援推進員が配置され、チーム員会議に参加しています。チームと一度協働すると、他にも必要なケースを発掘できたり、アセスメント力やスキル向上によりチームにつなぐ前にうまく支援ができたなどの効果がみられています。今後も認知症の早期発見・早期対応のために地域の関係機関と共に取り組んでいきたいと思っています。

いわき市の取り組み① ～市民後見人の養成～

いわき市権利擁護・成年後見センター センター長 園部 衛

いわき市における認知症施策の取り組みの一環として、市民後見人の養成状況等について御報告させていただきます。

現状、認知症高齢者数の増加に伴い、認知症等により判断能力が低下した方を法的に支える制度である成年後見制度の利用支援ニーズが増大しており、その一方で受け手である成年後見人等（以下「後見人」）受任者の不足が懸念されております。

そのため、本市においては成年後見制度の利用の促進及び受任者の拡大に平成26年度より取り組んで参りました。

平成27年度には、受任者拡大策の一つとして新たな担い手の確保と、地域における権利擁護支援者の育成等を目的とした第1期市民後見人養成講座を開講し、昨年10月1日をもって当講座が終了となり、修了生18名の方に修了証書を交付したところです。

当講座の実施と併せて、市民後見人の受任体制

及び相談支援体制の整備に向けた検討を重ね、平成28年度末に本市における市民後見人の活動指針を策定したことから、平成29年度には関係機関と連携を図りながら市民後見人の受任に繋げるよう努めて参ります。

なお、今後も増大する認知症高齢者の権利擁護を法的に支えるため、更なる受任者の拡大への取り組みが必要と認識しておりますが、拡大のみならず市民後見人が安心して活動していくための相談支援体制の充実と本人を支える介護支援専門員の皆様含めた支援者の方の御理解と御協力が必要であるものと考えております。

介護支援専門員の皆様におかれましては、後見人の役割を御理解のうえ、後見人と手を携え、本人を中心とした「本人が望む暮らし」の実現を目指した支援を展開して頂きますよう、御協力のほどお願い申し上げます。

いわき市の取り組み② ～オレンジカフェ以和貴～

いわき市保健福祉部 地域医療介護室 地域包括ケア推進課 事業推進係 事務主任 金成 聡司

厚生労働省によると、団塊の世代が75歳を迎える平成37年には、高齢者の5人にひとりが認知症になるとされ、全国で約700万人に達すると推計されています。

本市では、第7次市高齢者保健福祉計画において、「地域包括ケアシステムの構築」と「健康寿命の延伸」を平成37年に向けたビジョンとして位置づけ、そのビジョンの実現にむけた取り組みの視点のひとつに「認知症対策の推進」を掲げ大きく3つの取り組みを展開しています。

① 認知症に対する正しい知識と理解の促進

認知症あんしんガイドの作成・配布や、認知症サポーター養成講座の開催、認知症講演会等を開催し、認知症に対する正しい知識と理解の促進を図っています。

② 早期発見・早期対応ができるシステムの確立

平成28年6月には、認知症の疑いのある方や認知症の方に医師や専門職が早期に支援する、認知症初期集中チームを設置し個別ケースの支援の検討を行っているほか、市ホームページに認知症初期スクリーニングシステム「これって認知症？わたしも認知症？」を設定し、誰でも気軽に認知症チェックができ、早期発見・早期診断に向けた施策を行っています。

③ 本人及び家族介護者支援の充実

認知症の方とその家族等が、認知症によって生じた生活の変化・混乱・漠然とした不安感等を、同じ立場の方と共有、共感することで解消することができ、専門職等の配置により最初の相談窓口として適切なケアに結び付けることができるほか、地域住民の交流の場を創出することで、認知症の正しい知識の普及啓発を図り、認知症の方とその家族を地域で支える体制の構築を目的に認知症カフェ事業「オレンジカフェ以和貴」を市内各地に設置しています。

「オレンジカフェ以和貴」は、商業施設での開催のほか、介護施設や、公共施設の市内6カ所で、それぞれ月1回ずつ実施し、様々な形態のカフェ事業を展開しています。

「オレンジカフェ以和貴」では、相互の情報共有によるピア・サポート、専門職による相談対応、地域への情報発信・収集の場として、大きく3つの機能を有し、認知症の方とその家族が気軽に立ち寄り、支援に繋げることができる事業とし、今後、市内各地での開催や内容の充実を図っていきます。

「オレンジカフェ以和貴」の詳しい開催場所・時間等は、いわき市ホームページをご覧ください。

<http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1454293773647/index.html>

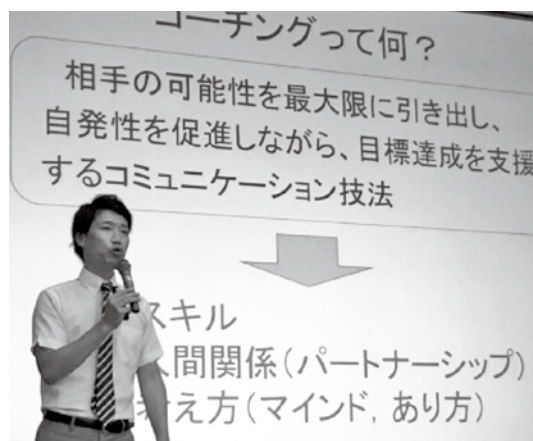
会員研修についてのご報告及び感想

～コーチングって何だろう～ 利用者様の可能性を引き出す技術を学ぶ

いわき市介護支援専門員連絡協議会 丹内美樹男

その人の「持っている力」や「可能性」を引き出し、自発的な行動を促進して、自己実現をサポートする双方向のコミュニケーション技術として注目を浴びるコーチングの技術を学ぼうと、地元いわき市出身の鯨岡栄一郎先生（株式会社メディケアソリューション代表取締役）をお招きし、会員研修を開催しました。

明日から実践できる介護支援専門員として求められる利用者や支援者、スタッフとの連携協働の視点を学びましたが、躍動感あふれる鯨岡先生の講演に予定していた2時間では短すぎるとの声も多く、参加した方々は満足された表情で会場を後にしました。



第19回 介護支援専門員実務研修 受講試験の結果について

福島県におけるの受験者数及び合格者数は、第18回（2015年10月）試験から減少傾向にあり、第19回（2016年10月）ではさらに減って受験者数2,434人→2,319人、合格者は316人→275人という結果でした。減少した背景には、第18回試験から『解答免除廃止』されたことが影響しているのではないかと考えられます。また、ケアマネ資格取得者が増えてきているため、問題を難しくしているのではないかと、とも言われているようです。合格率だけで難易度は判断しづらいですが数字を見る限り、前回は13.0%→11.9%と難化の傾向にあるのは確かです。合格者数の減少は受験者のみならず、各介護支援事業者にとっても大きな悩みと言えそうです。

受験者数	2,319人 (2,434人)
合格者数	275人 (316人)
合格率	11.9% (13.0%)

福島県介護支援専門員協会 ホームページリニューアル

本会のホームページがリニューアルしました。最新情報及び研修情報がより充実、ブックマークをよろしくをお願いします。



発行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会長：千葉喜弘

事務局：郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号

TEL 024-924-7200 FAX 024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：仁井田義弘 藤江 眞明 伊東 靖裕 丹内美樹男 清野 公隆 熊田 征紀
天野和加子 佐藤 裕洋 三本松久美子 伊藤麻樹子 小山 香織 佐々木香織